

生徒会新聞

REVERB

11月号

令和2年11月13日発行
柳井学園高等学校
生徒会

E-mail
gakuen@yanai-g.ed.jp

第四十九回戴帽式 衛生看護科二年生

十一月六日金に戴帽式が行われました。新型コロナウイルスの影響で例年とは違った形で開催となりましたが、戴帽生の表情からは実習に対する意気込みが伝わってきました。以下は、理想の看護師像についての戴帽生の言葉です。

芥川 彩葉



(灘中学校出身)

私は、患者様に正しい医療を提供し、寄り添い支え護ることの出来る看護師になりたいです。そのために今までの以上に努力してまいります。

有福 美有



(柳井中学校出身)

私は、患者様のことを一番に思い、適切な判断や行動ができるように努めています。患者様から信頼されるよう意識してまいります。

今田 結菜



(川下中学校出身)

見学実習で興味をもったこと、もっと技術を向上させたいと懸命に取り組んでいきます。看護師としての誇りを大切にしたいです。

内海 愛喜



(田布施中学校出身)

これから患者様を受け持つので、その患者様に合わせた看護を努力していきます。チームワークが大切だと感じています。看護師として貢献したいです。

浴尾 優蘭



(岩国中学校出身)

私は将来、美容整形外科の看護師になりたいです。そのために、基礎知識と美容整形に関する知識を深め、これからの学習を頑張りたいです。

江藤 眞子



(浅江中学校出身)

私は患者様の苦痛を和らげる看護をしたいです。そのためには、病院実習では患者様と周りの環境に目を向けて、看護してまいります。

迫田 彩音



(玖珂中学校出身)

これからたくさん辛いことがあっても乗り越えていきたいです。立派な看護師になれるように頑張りたいです。

末岡 寿梨



(田布施中学校出身)

自信をもって積極的に行動するようになりたいです。そして、少しの変化にもすぐ気づき、行動できるように看護師になりたいです。

末廣 莉央



(美和中学校出身)

臨機応変に対応し、テキパキ働ける看護師になりたいです。そのために、実技を身につけるだけなく、自己判断能力も身につけたいです。

高越 未唯



(玖珂中学校出身)

私の理想の看護師像は、患者様一人ひとりに目を向け看護できる看護師です。どんな時も笑顔忘れずいたいです。

寺岡 真和花



(柳井中学校出身)

私は将来、医学、看護の知識を豊富に持つ看護師を目指したいです。そのために勉強を頑張りたいです。

中村 花音



(川下中学校出身)

私の理想の看護師像は小さな変化にも気づけるような看護師です。スタートラインに立ち、命を懸けて頑張ります。

鳴石 有希



(柳井中学校出身)

私の目指す看護師像は周りから感謝される看護師です。そのため実習の日頃の生活から人のために行動する力を身につけたいです。

橋本 蒼依



(柳井南中学校出身)

私は、患者様に寄り添い精神的な面でも支えることのできる看護師を目指します。初心を忘れず、病院実習に励みたいです。

橋本 彩来



(平生中学校出身)

優しく責任感のある看護師になるために、何事も積極的に勉強や実習に取り組み、日々の努力をしています。

原田 彩加



(久保中学校出身)

私はどんなに辛いことがあっても泣かないことを目標に実習を頑張りたいです。相手のことを考えられる看護師になりたいです。

広城 桃花



(末武中学校出身)

患者様に寄り添い、今まで学習してきたことを十分に発揮できるように取り組むたい。みんなから信頼される看護師になる！！

馬嶋 暖



(柳井中学校出身)

「貴方が担当の看護師で良かった」と患者様に思われるような、思いやりのある看護師になりたいです。

望月 琉那



(和木中学校出身)

患者様の気持ちに寄り添うことが出来る笑顔の素敵な看護師になりたいです。これからい責任をもちたいです。これからも動いていきたいです。

山下 七海



(柳井中学校出身)

私は周りから頼られ、誰にでも優しく接するようになるたい。看護師としての責任をしっかりと果たしたいです。

吉田 鈴



(光井中学校出身)

自信をもって行動したいです。また、一人でも多くの人に寄り添いたいです。看護師さん。



戴帽式の様子



私の部屋には、幼い頃の写真と、その当時七夕で書いた短冊が飾られています。その短冊には、まだ拙ない字で「おおきくなったらかんごしさんになりたくな」と書いてあります。当時の私が、看護師になったら？という正しく理解しているはずもなく、ただ母の「将来は看護師にならなさい」という何気ない言葉で、何となく書いたように思います。けれども、私は今、こうして短冊に書いた言葉通り、看護師への道を歩んでいます。

中学二年生の時でした。私は、部活動で膝にけがを負い、手術のため入院しました。初めての手術という経験から、私は「無事成功するんだらうか」と術中、麻酔が切れたらどうしようかと、手術に対する不安や恐怖を感じていました。そんな私に、一番近くで寄り添ってくれたのは看護師の方でした。笑顔で「大丈夫大丈夫」と、温かい言葉をかけてくれ、私の気持ちを軽くしてくださいました。この経験から、私は看護師に強く魅力を感じるようになりました。本気で看護師を目指す時期になり、私は迷うことなく柳井学園の衛生看護科を志望しました。ですが、入学すると、私が想像していた高校生活とは真逆の高校生活が待っていました。七時間の授業や普通科よりも遥かに多い教科数、毎日の課題や難しい専門用語など、入学当初は、自分はいかに頑張っているのかとばかり考えていました。そして、中学校とは違い、女子しかクラスにいないため、上手く人間関係を築いていけるのかという心配もしていました。七時間の授業を終え、部活動の練習に行き、練習で疲れて帰っても、課題をしなければならぬ日々が疲れ果て、毎日がストレスに感じる時期がありました。その時は、何もかもが面倒に感じ、友達にまで冷たい態度をとり、悲しい気持ちにさせてしまうことがありました。そんな自分が嫌になり、自分を責め、最終的には「なんで学園に来たんだろう」「なんで自分が看護師を目指してるんだろう」と、心の中でマイナスイメージを吐き出すようになりました。そんな時、私を支えてくれたのは母でした。母はとても強い人で、私をたくさん叱って、たくさん褒めて、ここまで育ててくれました。私が弱音を吐いた時は、最後まで話を聞いて「あんたなら大丈夫よ。頑張れんさい」と強く背中を押してくれました。そして、私のために遅くまで働き、毎朝早起きして、お弁当を作ってくれます。母のお陰で、前を向くことができ、今、夢に向かって頑張ることができています。周りのたくさんのお陰で、前を向くことができ、今、夢に向かって頑張ることができています。それは、日々熱く指導してくださる先生方、共に努力をしながら、元気に頑張ろうと思わせてくれる部活動の仲間、そして、個性あふれる、楽しい、必ず誰かが駆けつけるような、助け合える温かいクラスでもあります。入学生活から学習面では鍛えられたのは、一人ひとりの成長が切実な経験から入りました。それは、このクラスが、家庭学習の取り組みから切磋琢磨するようになり、それが結果を出せるクラスになりました。みんな互いに高め合えるクラスになりました。私はこのクラスが大好きです。みんな互いに高め合えるクラスになりました。私はこのクラスが大好きです。みんな互いに高め合えるクラスになりました。私はこのクラスが大好きです。

今年度は新型コロナウイルスの影響で、来賓・保護者の方の出席をご遠慮いただきましたが、生徒代表の誓いの詞で、鳴石有希さん(柳井中学校出身)が参列者の心を打つ、看護師という夢に対する決意表明をしてくださいましたので紹介します。(一部省略しています。)

誓いの詞